



おかげさまで10周年! 福岡県産小麦「ラーメン麦」

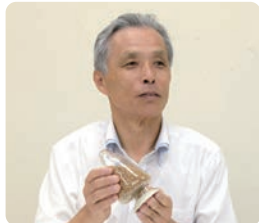


古庄さんのおすすめは、実は「やわ」。モチモチとした食感と小麦の香りが楽しめるだけでなく、でんぷんのうま味も染み出しますよ!

とんこつラーメンといえば福岡県。北海道に次ぐ全国2位の小麦の作付面積を誇ります。ラーメンの登場以前、県産小麦の多くはうどん用の品種であり、ラーメンに使われる小麦のほとんどは外国産でした。

福岡のラーメンに合う小麦を作りたい、そんな思いから平成16年にラーメン麦の開発はスタートしました。

「製粉会社の人々が麺を試食するのを見ている間が一番緊張した」と当時のことを語るのは、ラーメン麦開発時に県農業総合試験場(当時)で小麦の品種改良を担当した古庄雅彦さん。品種改良には通常10年を要する中、古庄さんたちに与えられた期間は5年。大きな挑戦でした。2000もの候補からラーメンに適した小麦を3つまで絞り込むのに3年。製粉会社の協力も



透明感のある原麦をわが子のように手に取り、熱く語る古庄さん

得ながら、麺の作りやすさやゆで方、食感などのチェックを重ねた末、平成20年、コシがあって、ゆでのびしにくく、濃厚なとんこつスープにマッチする小麦「ちくしW2号」が誕生。これが日本初のラーメン用小麦となる「ラーメン麦」です。

収穫量が多いラーメン麦は、農家からも喜ばれ、作付面積は10年で10倍以上に拡大。ラーメン店の評判も良く、使用店舗は10年で20倍以上の220店舗にまで増加しました。それもこれも「作る人(農家)、買う人(製粉会社)、食べる人(消費者)を見据えた開発だったからこそ。これからも三者に喜ばれる食材として広がってくれたら」と古庄さんは願っています。

ラーメン麦は今年販売開始10周年を迎えます。記念企画として11月16日(土)、17日(日)に天神中央公園で開催される「福岡県農林水産まつり」ではラーメン麦関連のブースが多数出展予定です。福岡が誇るラーメン麦をこの機会にぜひご堪能ください。

問い合わせ：水田農業振興課
☎092-643-3472 ファクス092-643-3477

Do you know Fukuoka?
知ってる?
福岡県
vol.15



「駅伝」の名付け親・武田 千代三郎 ～「スポーツマンシップ」を追求し、スポーツの振興に尽力した偉人～

一本のたすきをつないで走る姿がドラマと感動を生む「駅伝」。この名付け親が福岡県出身であるのをご存じですか?

武田千代三郎は、1867年に柳川藩士の家に生まれました。16歳で東京大学予備門(大学付属の教育機関)に入学し、彼の人生に大きな影響を与えた英語教師、フレデリック・ウィリアム・ストレンジと出会います。陸上競技などの名選手でもあるストレンジは、「運動は体を鍛えるだけでなく、知性と徳を磨くための手段である」と熱心に説きます。感銘を受けた千代三郎は、自身もスポーツに打ち込む中で、「立派なスポーツマンはどうあるべきか」について考えを深めていきます。

千代三郎がたどり着いたスポーツマンシップとは、「スポーツを通して体と心と知性を磨き、試合では自分自身に打ち勝ち、ひきょうなことをせず一生懸命プレーすることを、勝つことよりも大切にする」というものでした。千代三郎はこれを「競技道」と名付け、著作も残しています。

大学卒業後は各県の知事などを歴任し、スポーツ振興に尽力。「駅伝」の名付け親となったのは1917年、



武田千代三郎肖像。知事時代は富士山の登山道整備や十和田湖の自然保護にも取り組む

大日本体育協会副会長を務めていたときのことで。東京への遷都50周年の節目に開催された大会を「東京奠都五十周年記念東海道駅伝徒歩競走」と命名しました。京都から東京までを23区間に分けて走るこの大会で関東組のアンカーを務めたのは、あの「いだてん」金栗四三です。3年後には箱根駅伝が開催され、「駅伝」は今や海外でも「Ekiden」として知られています。

そんな偉人を輩出した柳川市では、毎年1月に駅伝競走大会を開催しています。「駅伝」の名付け親に思いをはせながら、参加・応援してみたいはいかがですか。



千代三郎について語る柳川古文書館の田淵館長と梅本さん

問い合わせ：柳川古文書館(武田千代三郎に関すること)
☎0944-72-1037 ファクス0944-72-5559
開館時間/9時30分～16時30分(入館は16時まで)、月曜日休館
柳川市生涯学習課 スポーツ推進係(柳川市駅伝競走大会に関すること)
☎0944-77-8837 ファクス0944-74-2707